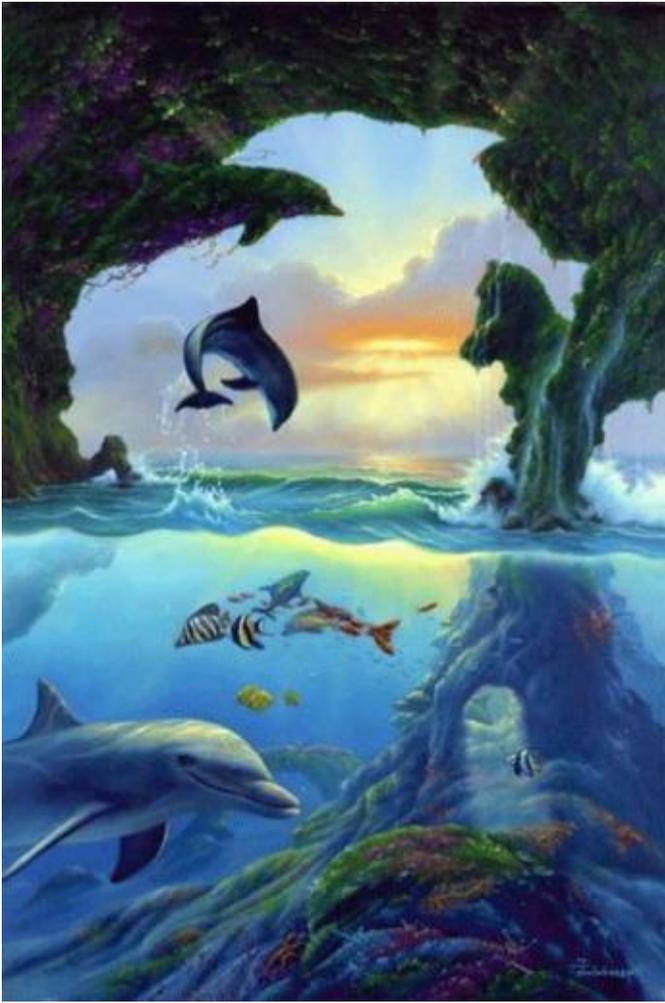


見方を変えれば

境川中学校 一年七組 大橋優輝

自分では、ずっとそうだと思っただけでも、他人からでは、また違う意見を受けて、心の中で「なるほど」と思ったことは日常生活の中でよく経験することだろう。

下の図を見てみよう。美しい海の姿である。しかし、この絵の中には、たくさんのイルカがかくれている。七頭もかくれているのだ。もう、あなたはお気づきかもしれないが、分からないあなたに、説明しよう。空中に一頭、そして、岩がイルカの形になっている。水中に目を向けてみよう。魚が集まってイルカの形を作っている。あと四頭この図にかくれている。あとは、ご自分で見つけ出してほしい。



どこにでもある絵でも、中には裏の顔を持っているものがあるのではないだろうか。きっとあなたにも経験があることだろう。次も、また違った絵をお見せしよう。左の図は、おじさんが座っている絵である。

近くから見ていては、何も変わることはないだろう。しかし、少し離してしまえば、その絵はドクロと化してしまう。

このように、物によつては、距離や角度、中心に見る物を変えることで、見えてくるものが違う。

遠くから見れば菜の花が一面に広がった姿は美しい。しかし、一輪ではあまりきれいとはいえない。このようなことは、思い返せばいくつか思い浮かぶだろう。

人は、物の一面のみをとらえ、分かり切ったように思いがちである。一つの物でも他の面を持っている。それに気づくためには、ちよつと立ち止まって、見方を変えて、新しい発見をし、驚きや喜びを味わうことで楽しみがふえていくだろう。

